

■司 会／後田 逸馬 鹿児島国際大学 非常勤講師  
設楽 聡 熊本県水俣市教育委員会生涯学習課 社会教育主事

## 1 青小唐津まで歩くんジャー

13:30～13:55

－3泊4日、83キロ：「生きる力」への挑戦－

光延 正次郎（福岡県古賀市） 古賀市立青柳小学校 教諭

初めは下関までの100キロを6年生が歩いた。その成果を継承して、2年目は唐津城を目指した。古賀市にはかつての唐津街道の宿場があったという縁を生かしたのである。参加児童は6年生78人。宿泊は行程の途中にある三つの小学校の体育館である。夕食は自分達で準備し、寝袋に入って眠る。計画から実行まで基本は子ども達がやる。子どもの成長に体験の質と量が問われる事は疑いない。

## 2 自然はぼくらの保育園

13:55～14:20

－自然の力でこそ育つ “かしこさと生きる力”－

池田 真弓（佐賀県基山町） ころころ保育園 園長

教育方針も、教育方法も徹底した外遊びと自然体験である。保育園の園庭は子ども達の掘った穴だらけ。年長組もいわゆる勉強はしない。文字どおり、教室も自然、教材も自然である。卒園式では個々の子どもができるようになった事を披露する。跳び箱や逆上がりも出て来る。「生きる力」は自然の中で体力を付ける過程で培う教育である。

ティータイム

14:20～14:55

## 3 目標は “タフな子ども”

14:55～15:20

－地域と共に歩む学校の創造－

松田裕見子（長崎県勝本町） 勝本町立霞翠小学校 教諭

「タフな子ども」は長崎県生涯学習行政のモデル事業の目標スローガンである。霞翠小学校では、指導にあたって、「タフな子ども」とは、「体力」、「忍耐力」、「学力」、「道徳実践力」、「表現力」、「コミュニケーション力」を身に付けた子どもであると想定している。モデル事業の指定を受けた事を契機に、保護者、地域住民の協力を得て、学校支援ボランティアを導入し、教育の内容・方法共に既成の学校概念に捉われない新しいタイプの学校づくりに着手している。

## 4 6年生子どもエージェントからの提唱・アクション “きよらの里づくり” 15:20～15:45

－「ツアーガイド」から「子どもヘルパー」まで－

中山 和臣（熊本県南小国町） 前南小国町立市原小学校 教諭（現熊本市立託麻東小学校 教諭）

6年生を中心に子どもができるまちづくりの参画事業を発想し、地域の人々の協力を得て、子どもツアーガイド事業「きよらの里ツアー」を創設した。また、子どもができる範囲で子どもホームヘルパー「ティータイム」も実行した。地域コミュニティの活性化に学校は何ができるか、子どもは何ができるかを問うと同時に郷土愛の育成、地域コミュニティの再生、地域教育力の向上を目指している。

## 5 総括討論

15:45～16:15

PM